

木造薬師如来坐像 (古谷本郷薬師堂蔵)

この薬師如来像は八百年もの長い間、古谷本郷の人々の暮らしを見守ってきました。本来は灌頂院(古谷本郷)の塔頭の一つである神宮寺の本尊であったと伝えられ、現在はJR川越線線路脇の薬師堂の中にあります。堂内には、この像を中心として両脇に日光菩薩・月光菩薩像、その前に十二神将像が並んでいます。

この像本体の高さは百三十七センチ、いわゆる半丈六の坐像です。仏像の高さの基準となるのは一丈六尺(四百八十五センチ)と伝えられる釈迦の身長で、この像は座った姿の約半分の高さに相当します。

薬師如来は、現世に生きている人々を救済する仏であるといわれています。この像も他の薬師如来像と同様に、右手で人々の不安を除く施無畏印を結び、左手には人々の痛みを癒やす薬のつぼを持っています。

この像の特徴として、まっすぐに伸びた背筋、厚みのある胸、大きな手のひら、鋭く切れ上がった目じり、張りのあるほぼがあげられます。平安時代の仏師・定朝が創造した定朝様と呼ばれるおだやかな作風から、素朴ではあるものの写実的な鎌倉時代の作風に変化する過渡期における、県内でも代表的な仏像です。



関東地方での中世彫刻の始まりを告げる資料として、彫刻史の上からも忘れることができない仏像です。

世界の国から、こんにちは!



出身地のイポー市を指さす、センさん



マレーシア

マレーシア/セン・ウエン・ピングさん (26歳・的場)

市内にある東京国際大学の4年生です。初めて川越に来たとき、時の鐘や蔵造りの町並みを見て、歴史を感じました。住んで3年になりますが、川越の人は優しいですね。

出身は、ペナン島に近いイポー市です。人口40万人ほどで、スズ鉱山で栄え、日本の工場もあります。ザボンに似た果物・リマウバリ(ポメロ)の主産地です。

現在、就職活動中です。中国系マレーシア人なので日本のメーカーに勤め、中国やマレーシアとの橋渡しをしたいと思っています。働いても、川越に住み続けたいです。
*外国籍市民の皆さまを対象にした催しは16ページ、相談は26ページをご覧ください。

国際交流課国際交流担当・内線2141

どんぐり

編集後記

梅雨に入り、じめじめとした日々が続いています。雨に濡れたアジサイはきれいなのですが、やはり日の光が恋しいですね。子どもは外で遊びたいと言いますが、この時期はどうしても家の中へこもりがち。せめて晴れた日には、野外へ出て体を動かしたいものです。梅雨明けが待ち遠しいです▶夏が間近に迫ってきたため、虫の活動も活発になってきました。そのためか、我が家の換気扇にハチの巣ができてしまいました。台所で耳を澄ませば「ブーン、ブーン」と羽の音が聞こえます。子どもはびっくりして、部屋の隅で隠れています。換気扇を回しながら殺虫剤をひと噴き。翌朝、羽の音は聞こえなくなりました。なんで、こんな過酷な条件の所に巣を作るのか不思議です。人間だけでなく、ハチの住宅事情も厳しいのでしょうか?